

人を見る目が問われる瞬間

期待通りに動かない相手から、私たちは何を読み取るのか？

2万円は、感謝の証拠か？

20,000円

ある人が、軽い挨拶だけで返信を待たずに退会していった。

その場に残された2万円。

「感謝の気持ちだったのかな？」——私たちは、そう受け取りたくなる。

事実

「払ってくれた」

解釈

「感謝してくれた」

事実と解釈は、別物だ。

お金に込められた感情は、
金額だけでは分からない。

本人が語らない心情まで、
こちらで確定することはできない。



「最後に自分をいい人に演出して
やめなかったのは、好きです」

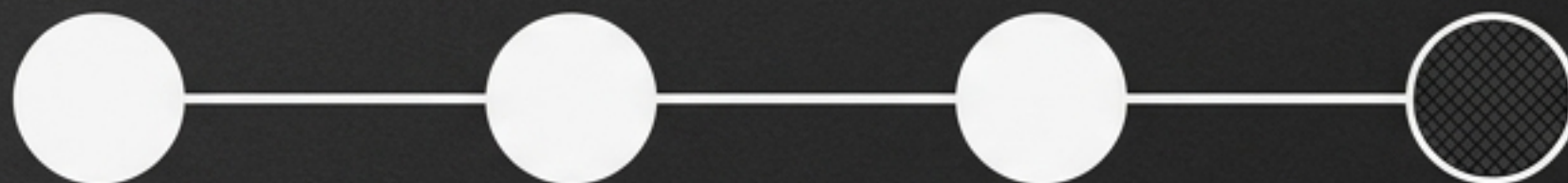
辞める判断や行動に納得できなくても、
去り際のある一点は評価できる。

雑な見方では、人は見えない。

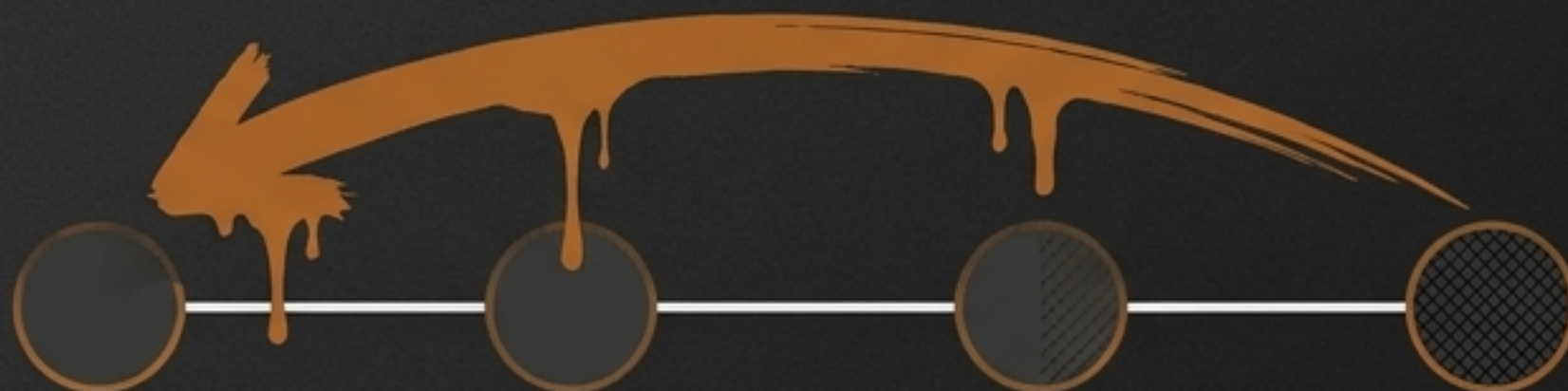
- ・離れたから、全部ダメ。
- ・払ったから、感謝。

The Rewriting Process

Healthy Process



Distorted Process



人は関係がこじれた瞬間に、相手の過去まで悪く塗り替えてしまう生き物だ。

あなたは相手を見ているか？

	自分に都合の良い物語	相手を理解する視点
予期せぬ行動	相手の悪意や好意を勝手に決めつける	判断を保留し、背景を推測する
関係の悪化	過去の良かった思い出まで全否定する	納得できなくても、良かった部分は残す
表面的な行動	自分の期待通りに意味を確定させる	一つの手がかりとして扱い、全体像を探る

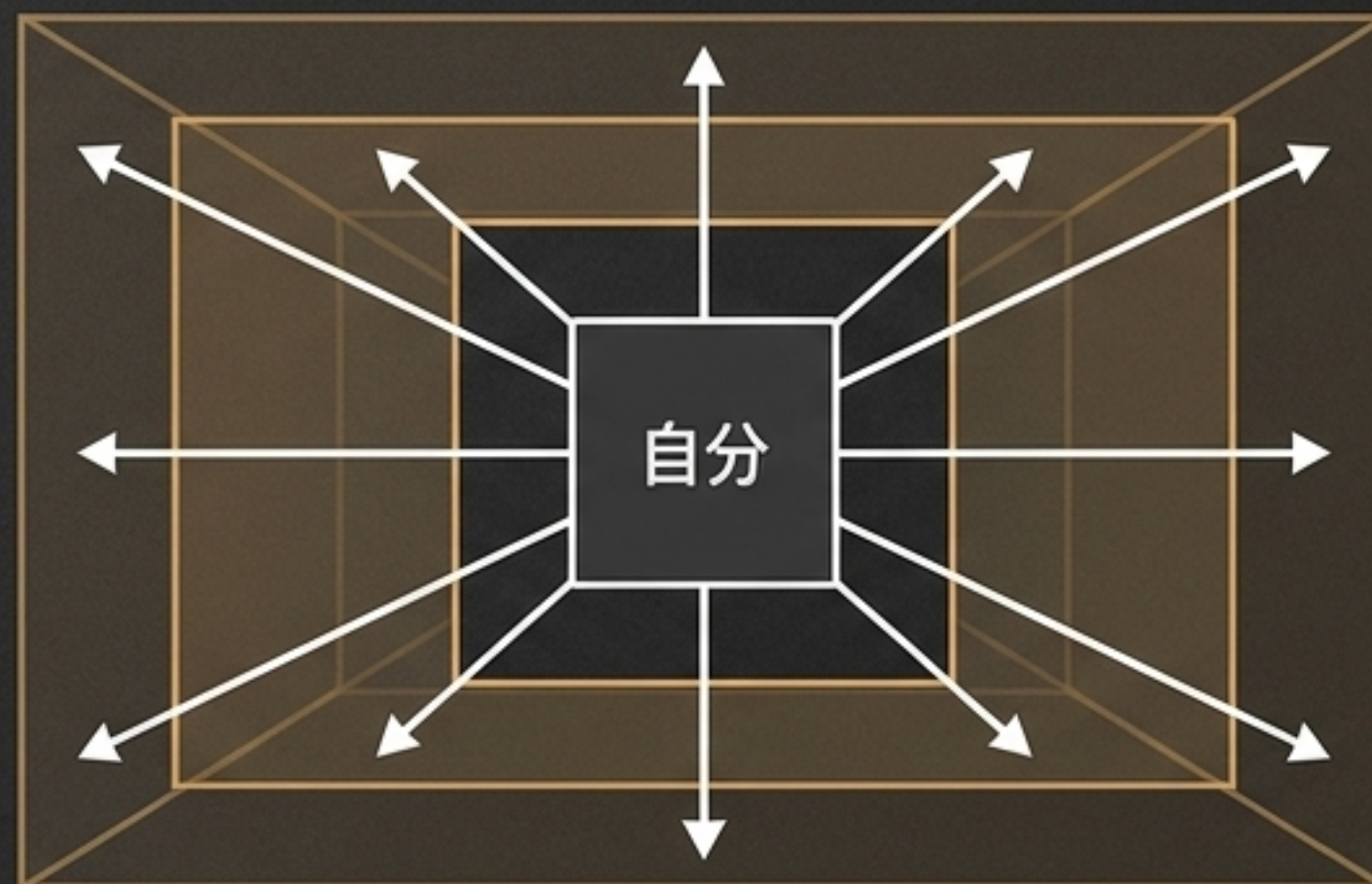


推測が暴くのは、 相手の心ではない。

相手の心情を推測するとき、
同時に見つめなければならないのは
「自分の願望」だ。

相手を理解しようとしているのか。
それとも、自分に都合のよい人物像を
つくって安心したいだけなのか。

真相が分からなくても、推測する意味



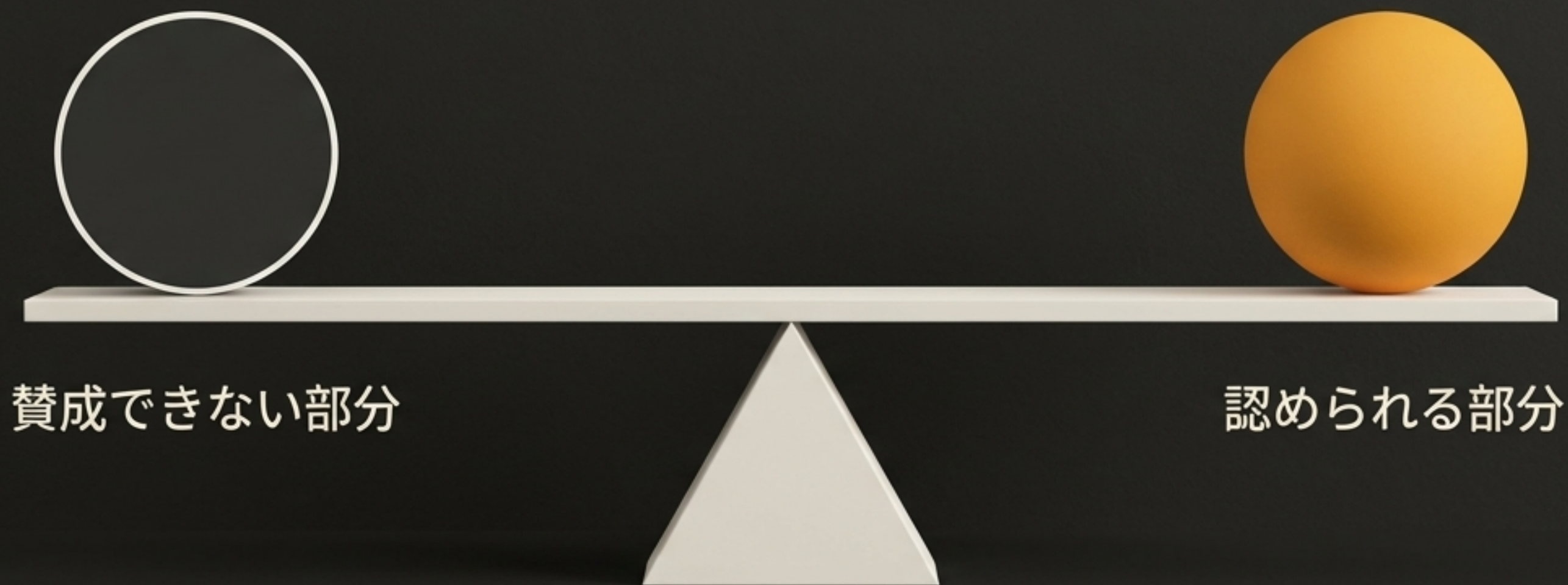
視点の獲得

自分にはなかった視点に触れ、「そういう気持ちもあり得るのか」と理解の幅を広げるため。

⚠ 認知の罫への警戒

ただし、自分が「納得できる推測」ほど、事実のように扱いたくなる。その時こそ、自己点検が必要だ。

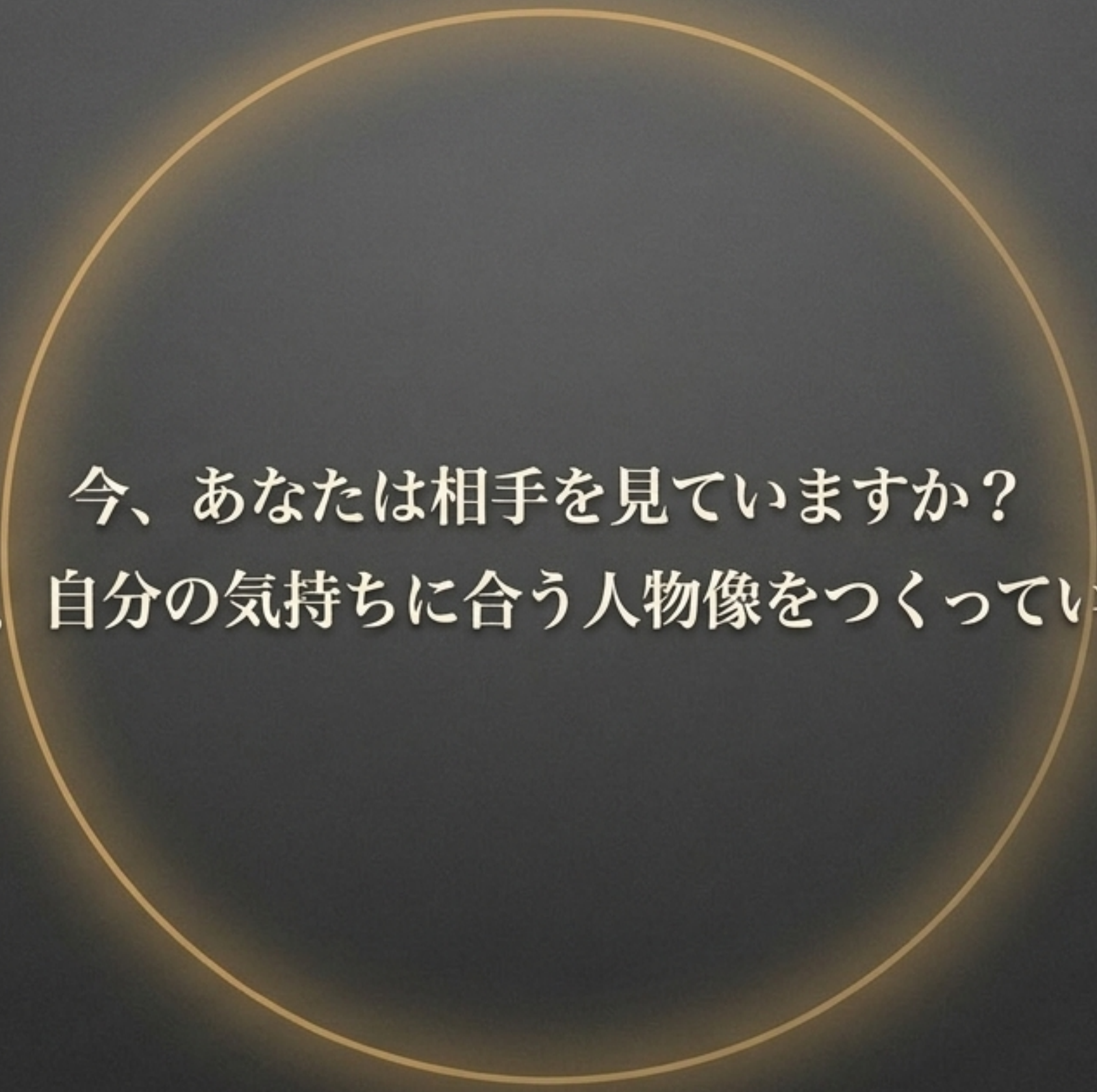
目を曇らせない強さ



相手がこちらの期待から外れたあとも、その人のすべてを否定しない。
矛盾した二つの感情を、白黒つけずに両立させて保持する。

賛成できない部分はある。
それでも、認められる部分は認める。

その姿勢を保つことにこそ、
人間の器が表れるのだ。



今、あなたは相手を見えていますか？
それとも、自分の気持ちに合う人物像をつくっていますか？